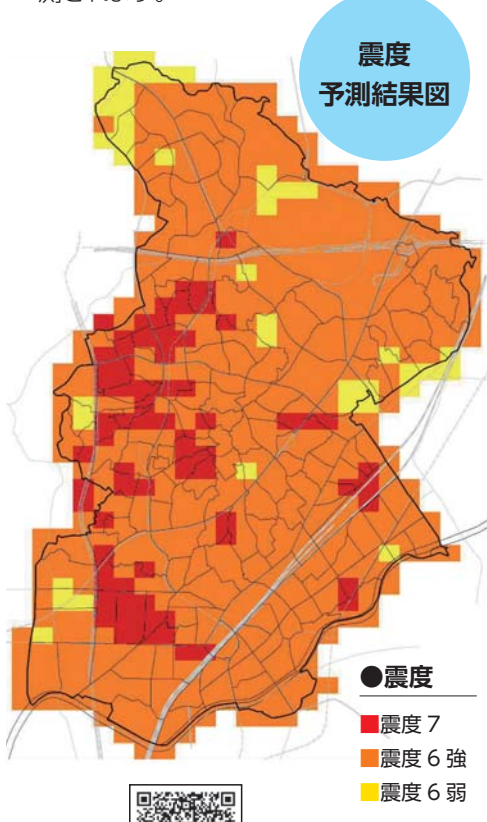


日本国内には地震災害をうけない安全な場所はない

上町断層帯の活断層が動き、吹田市を阪神・淡路大震災クラスの地震がおそったら

震度の予測

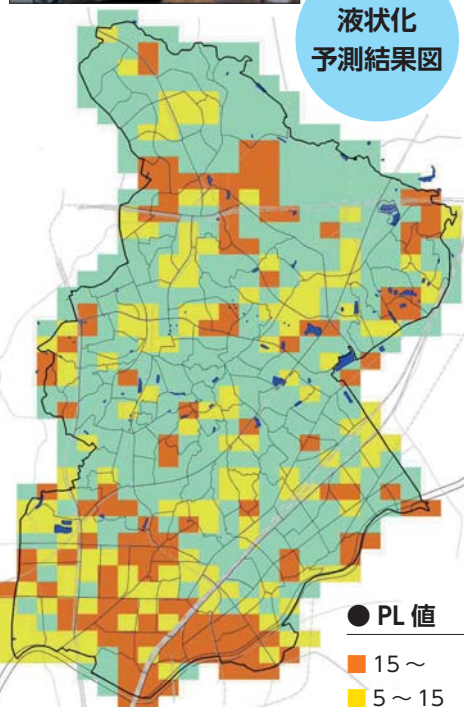
市域のほぼ全域にわたって震度6強以上となり、上町断層帯の東側や、盛土された地盤などを中心に震度7が計測されると予測されます。



吹田市被害想定(概要版)

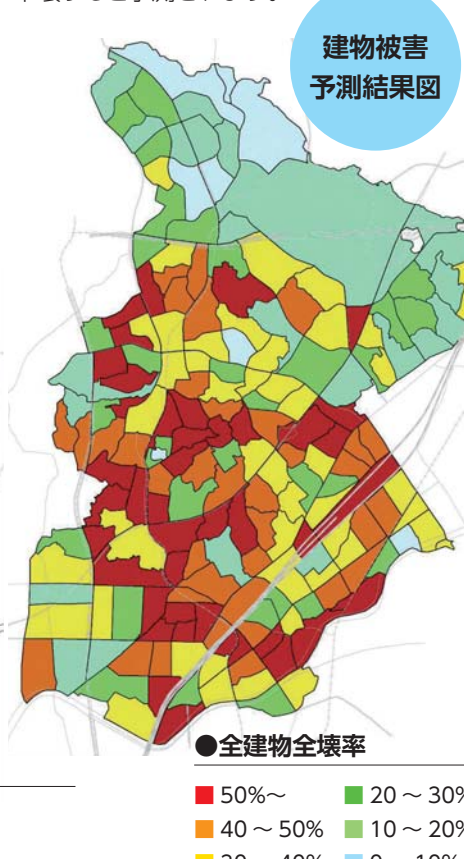
液状化の予測

市域南部の神崎川・安威川沿いの低地や、盛土された地盤では砂が噴き出したり、流動したりすると予測されます。

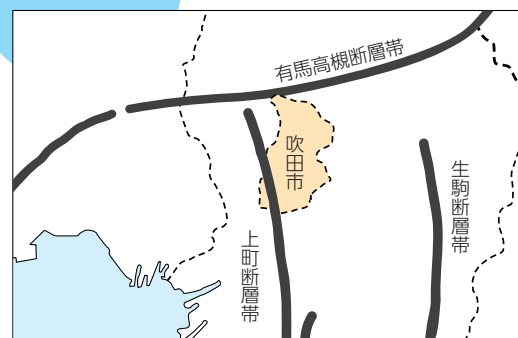


建物被害の予測

市域にある木造建物のおよそ76%が全半壊し、非木造建物のおよそ32%が全半壊すると予測されます。



想定震源断層位置図



参考:「新編日本の活断層」(東京大学出版会)

人的被害の予測

地震の直接的な被害により、多くの市民が死傷し、約5万人の方が、避難所生活を余儀なくされると予測されます。

●一時避難者とは、二次災害に備えて一時的に避難する人。

死者数・負傷者数の予測結果

死者		負傷者	
人数	人口比	人数	人口比
1,364人	0.4%	4,628人	1.3%

避難者数の予測結果

罹災者		避難所生活者	
人数	人口比	人数	人口比
179,779人	50.4%	52,134人	14.6%

安全な場所はない

南海トラフ地震では、強い揺れや大津波などによって、甚大な被害が予測されています。東日本大震災の発生を受けて国は、これら南海トラフで発生する巨大地震について新たな想定をまとめました。それによると、震度6弱以上の揺れに見舞われる可能性があるのは24府県の687市町村にも及んでいます。吹田市の場合、震度6弱の可能性があるとされています。

これらの地震で大きな被害が予測される地域は、東海地震の場合は「地震防災対策強化地域」、南海トラフ地震の場合は「地震防災対策推進地域」に指定され、防災対策が強化されています。吹田市は、南海トラフ地震の地震防災対策推進地域に指定されています。

●南海トラフの巨大地震による震度分布図(最大クラス)



南海トラフ地震の地震防災対策推進地域

原則として、南海トラフ地震によって以下の被害が予測される地域。吹田市は1に該当します。

- 震度6弱以上の地域(地震の揺れによる著しい被害)
- 「大津波」(3m以上)が予想される地域のうち、この水位よりも高い海岸堤防がない地域

※漂流物が多いと見込まれる地域:特定重要港湾及び重要港

●南海トラフ地震の発生

南海トラフでの地震は、過去におよそ100~150年周期で繰り返して起きています。右図に示すように3つの震源域で同時、あるいは時間的に接近して発生するケースが多いことがわかっています。

